



気化(気化)と調理(調理)

Gihwa and Jori

目次

1. 気化(氣化)と条理(調理)とは何か

2. 東学思想の気化(氣化)概念

3. 大巡思想の調理(調理)概念

4. 理(理)概念の比較

5. 東西神人関係の統合

6. 結論および意義

気化(氣化)と条理(調理)概念の紹介

東学思想と大巡思想では、宇宙万物の生成と変化、秩序と調和を説明する核心概念として気化と調理を提示する。この二概念は各思想の特徴と世界観を理解する核心要素である。

気化(氣化)

- ◆ 宇宙万物の生成と変化の原理
- ◆ 東学思想において天地の生命力を象徴
- ◆ 「内有神靈外有気化(内有神靈外有氣化)」
-内面には神靈が、外部には気化が力動的エネルギーと創造的原理を強調する
- ◆ 万物の生成と循環を可能にする根源的生命力

条理(調理)

- ◆ 宇宙の秩序と調和をなす原理
- ◆ 大巡思想において重要な統制と仲裁の原理
- ◆ 「天用地用人用之調理綱紀」(天用地用人用之調理綱紀)
-天と地と人が調和して作用する
- ◆ 理致(理)と法則が強調され秩序を付与
- ◆ 陰陽五行における「土(土)」の仲介役割と関連

気化と調理は、それぞれ力動性と創造性を象徴する気(氣)と、秩序と調和を象徴する理(理)に重点を置いており、これは東学思想と大巡思想の世界観の相違を示す。

東学思想の気化(氣化)概念

水雲・崔濟愚が創始した東学思想は、気化(氣化)を通じて天地および宇宙の流れを説明し、これを生命力の根源的エネルギーとして重視する。東学は伝統的な理気論(理氣論)から脱し、気(氣)の力動性と実践性を強調した。

気化の核心概念

- 天地の流れと生命力の根源的エネルギー
- 伝統的理気論より気(氣)を中心に思惟
- 実質的生命力と力動性の重視
- 「道氣長存邪不入(道氣長存邪不入)」
- 道の氣運が長く存在すれば邪悪は入って来ない
- 男性的な「至氣(至氣)」の概念として表現

内有神靈外有氣化

- 内には神靈(神靈)があり、外には氣化(氣化)がある
- 人格的でありつつ非人格的、外在的でありつつ内在的な天主の二重的姿
- 内的靈性と外的エネルギーの結合を強調
- 人と人、我と汝を媒介する共有されたエネルギー
- 西洋宗教と異なり氣化の神靈を強調した東洋的特性

「西教には氣化の神靈がなく、学問には天主の教えがない」

- 『論学文』に現れた水雲の西教批判

東学思想は気化(氣化)概念を通じて物質的近代文明への批判と代案的未來展望を提示した。初期東学は短期的・外部的・社会的な開闢を志向し、これはその後の韓国新宗教思想の基盤となった。

大巡思想の調理(調理)概念

大巡思想において調理(調理)は宇宙運行の核心的原理であり、超越天による仲裁と秩序、調和を意味する。これは東学思想の気化(氣化)と対比される概念である。

天用地用 人用之 調理綱紀 統制乾坤 此之謂造化手段也

天用(天用)と地用(地用)と人用(人用)は綱紀(綱紀)を等しくすることであり、天と地を統制する。これを造化(造化)の手段(手段)という。

神明界との調和

- 人身降世した超越天による条理(調理)の役割の強調
- 神明界によって調和される地界觀(地界觀)の形成
- 日月無私治萬物(日月無私治萬物) – 日と月が偏りなく万物を治める
- 天地の津液(津液)としての五呪(五呪)の意味
- 神明を通じた実質的世界秩序の付与

土(土)の仲介役割

- 陰陽五行で土(土)は中央に位置する仲介者
- 地は理致の中心となる存在として強調
- 「地の理致」は天門地方(天圓地方)の原理を反映
- 理(理)が日用事物(日用事物)に適用される実質性
- 理(理)範疇の包容性・多様性・動態性を土(土)の特性と連結

大巡思想は東学の男性的「気(氣)」概念とは異なり、女性的な心と理致に従う解冤を強調する。「真心堅守福先來」を通じて「道氣長存」より心の役割を重視する相違を示す。

理(理)概念の比較

東学思想と大巡思想は「理(理)」概念に対する理解と強調点において明確な相違を示す。この相違は両思想の世界観と根本的な接近方式をよく示す。

東学思想の理(理)

既存の理気論から脱し気(氣)の優先性を強調

- ◆
- ◆ 「道氣長存邪不入(道氣長存邪不入)」
「道と気が共に存在することを重視」
- ◆ 「理(理)」の実体性より力動性と生命力を重視
- ◆ 物質的近代文明への批判と代案の提示に焦点
- ◆ 短期的、外部的、社会的開闢を志向

「西教には気化の神靈がなく、学問には天主の教えない」

大巡思想の理(理)

無極太極(無極太極)に根拠する理(理)の実体性を強調

- ◆
- ◆ 「真心堅守福先来(真心堅守福先來)」
-女性的な心と理致を重視
- ◆ 理(理)は日用事物に適用される実質的な法度
- ◆ 「元亨利貞大經大法道正天地數定千法而理定心法」
-土(土)と心の関係の説明
- ◆ 長期的、宗教的、神明による開闢志向

「理雖高出於太極无極之表不離乎日用事物之間」(理は高いといえども無極太極から出現したものである)

大巡思想は理(理)概念を陰陽五行の「土(土)」概念と結び付けて再活性化することで、「気化(氣化)」概念に偏った東学思想よりも具体的な自生的近代性を提示することができた。東学が男性的「至氣」を強調するのに対し、大巡は女性的な心と理致に従う解冤を強調する。

東西神人関係の統合

東学と大巡思想は東洋の伝統的神観と西洋の神観を統合する観点を提示する。特に解冤相生を通じて東西洋の神人関係が融合されう
ることを強調する。

東洋の神明(神明)

- ◆ 陰陽五行の原理として理解される多様な神的存在
- ◆ 祖先神と自然神の区分と共存
- ◆ 無極・太極など非人格的・理法的原理の強調
- ◆ 人間と神明の相互作用的關係
- ◆ 「祖先が4代(代)を過ぎれば零となり仙となる」
-祖先と神明の連結性

西洋の天使(天使)と神

- ◆ 神明が天使概念へと位相が縮小
- ◆ 人間と天使の分離された存在論的位階
- ◆ 絶対者の人格化(イエスの「父」表現)
- ◆ 地下神との親近性(西洋伝統の特徴)
- ◆ 先霊神の位相の弱体化と復帰可能性

統合的観点

- ◆ 大巡思想の解冤相生を通じた東西洋の神人関係の統合可能性
- ◆ 西洋の天使概念が東洋の神明の地位へと復帰する過程
- ◆ 無極神(無極神)など理法的原理の人格的表現を通じた東西融合
- ◆ 人間と神明の關係が西洋でも復元され新たな調和を創出

結論および意義

東学思想と大巡思想の比較は、韓国固有思想の流れと自生的近代性の形成過程を理解する重要な鍵である。気化と調理という二概念の比較を通じて見ることでできる核心的結論と意義は以下の通りである。

研究結論

- 概念的相違東学の「気化」は力動的生命力を強調するのに対し、大巡の「調理」は秩序と統制を強調
- 理(理)概念の再解釈大巡思想が土(土)概念としての理(理)を再活性化し神明概念と接続
- 神明と気化大巡思想は東学の「外有気化」概念を拡張し神明界との調和として具体化
- 解冤(解冤)と相生(相生):「調理」を通じた理致的解冤と和解の実現方式を提示

学術的意義

- 自生的近代性西洋近代化とは異なる、韓国固有の近代性形成過程の照明
- 宗教的アイデンティティ東学以降の思想が民族的アイデンティティ維持に寄与した役割の確認
- 代案的価値観物質的近代文明への批判と代案的未來展望の提示
- 東西洋思想の融合理法(理法)と人格神概念の統合的理解可能性の拡張

現代的意味

学術的側面

東学と大巡思想の比較は韓国思想史研究に新たな観点を提供し、東アジア伝統思想の現代的再解釈と活用可能性を示す。

実践的側面

気化と調理概念の均衡は、現代社会の急激な変化と力動性(気化)の中でも秩序と調和(調理)を維持する知恵を提示する。